

イギリスの日によせて

—英国映画を知れば、英国が見えてくる—

REPORT 山口日英協会 國村 禎夫

まず初めに、第2回となる山口国際交流映画祭2004(ヨーロッパ映画祭)を開催することが出来ました事を、岩田学長様はじめ山口県立大学の関係者の皆様、山口情報芸術センターの皆様、そして4つの協会をまとめていただいた山口EU協会の皆様のご尽力の賜物と、この紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

ここでは、映画祭に参加していただいたお客様のアンケートをもとに、「イギリスの日」を振り返ってみたいと思います。イギリスの映画は「格調が高く」「渋い」けれどもその反面「とっつきにくく」「暗い」。かつての英国映画に対する一般的なイメージはそんなところでした。山口日英協会でも、今までアルツハイマー病をテーマにした「アイリス」や、家族の絆を描いた「人生は、時々晴れ」を英国映画祭として上映した際には、皆様からそういう厳しい、しかし時には「骨太の映画も必要」という暖かいご指摘を受けておりました。

そこで、今回は明るい映画を選ぼうということで、最終的に選んだ映画はイギリスのガーデニングを描いた痛快でペース溢れる「グリーンフィンガーズ」という映画になりました。山口県立大学の講堂で実施したこともあり、多くの学生の皆さんに見ていただいたことは誠に嬉しい限りです。その中で、「今まで見た映画の中で一番面白かった。イギリスの明るい映画を見ることができて良かった。」(10代女性)や、「色々なことを教えてくれる映画でした。人間のあいだに壁などないことを。」(10代女性)、「庭仕事によって囚人が更生するなんてすばらしいと思った。」(10代女性)、「イギリスで見たことがあり今回は2度目になりましたが、やはり素敵な映画でした。」(20代男性)、「古いものを大切にす文化や、主人公たちが偏見を越えて人間らしさを取り戻していく過程に込められた価値観が、講演と映画の両方から深く理解出来た。」(20代男性)といった、率直で若者らしい数々のコメントを読んだ時には、実行委員会のメンバーの疲れはふっとびました。

今回の映画祭を実行するにあたって考えたことは、映画祭のテーマであった「人間一心の交流」、そしてキャッチフレーズであった「泣いた・笑った・元気になった」を、映画を見に来てくれたみんなで実感し、感動を共有して欲しいということでした。映画は一人でホームビデオでも見ることが出来ますが、みんなで感動を共有できる空間で見ることがもっと楽しいということを感じて欲しかったのです。「グリーンフィンガーズ」上映中はすすり泣きの声が隣から聞こえてくるかと思えば、ユーモア溢れる場面で



澄川孝子 & 中野義久によるスペインの音楽コンサート(左)、スペインの日の司会を務めた米田晃久さんとアントニオ・カストロ・ロメスさん(右)

笑い声を誘い合い、そして映画が終わった時には大きな歓声と拍手が起きました。こういった臨場感あふれる客席内のコミュニケーションは、往年の映画館ではふんだんに味わえたことでした。

さて、今回は映画上映だけでなく、英国センター代表の長谷川洋子氏による「ガーデニングにみる英国ライフスタイル」と題する講演を実施したことにより、講演後の映画では「イギリス独特なガーデニング文化をより深く楽しめた。」という声が数多くありました。これも、私どもをハッピーにしてくれたコメントです。また、アンケートの中で「コッツウォルズの風景が懐かしかった。」という方もおられました。映画「グリーンフィンガーズ」は、羊たちが草を食む牧場のなかに中世の面影を伝える美しい村々の点在する丘陵地帯—コッツウォルズで撮影されています。「あの街—私の歩いたあの道、街の真ん中を流れるあの川、そして、あの日同じように泳いでいた鴨までも—がスクリーンいっぱいに見られて、思わず『ああ!』と叫びそうになった。」と書かれていました。

最後に、4つの協会が協賛して一つのイベントを開催するというチャレンジについてひとこと。スペインの日に上映された「めざめ」という映画についてです。アンケートに、「一頭の解体された闘牛のそれぞれの部位が、国籍を超えた人々のもとにたどりつく。その逆に、バラバラになった『死体』としての部位は、もとは一頭の闘牛の『生命』だったと繰り返されるメッセージ。拡散と集合のダイナミックな流れに、今の欧州という感じがした。」という声があり、人・物・情報の国境を越えた自由な移動を進める欧州連合(EU)と、EUを形成する様々な国と文化をイメージしていただくために映画が貢献できたことで、実行委員会の務めが果たされたものと思っております。



イギリス文化講演を終え、会場からブーケを贈られる長谷川洋子氏 (写真提供 3枚を除きすべて山口日英協会 山田禎二氏より)

ナバラ国際フォーラムの開催

INFORMATION

山口EU協会では、2004年11月4日(木)・5日(金)に開催されるナバラ国際フォーラムの後援をします。2003年11月に、スペインにて山口県とスペイン・ナバラ州政府とが友好都市協定を締結しました。これを受けて、同時に山口県立大学とスペイン・ナバラ州立大学とが姉妹校提携を結んでいます。今回のナバラ国際フォーラムは第1回目の交流行事となり、スペイン・ナバラ州より山口に訪問団がやってきます。11月5日(金)にはナバラ王国と大内氏の国際展開を解説する基調講演やパネルディスカッションが予定されており、夜には文化的なステージ、ナバラ土産の紹介などが行われます。場所は山口県立大学講堂です。ご来場をお待ちしております。

発行 山口EU協会事務局 〒753-8502 山口市桜島3-2-1 山口県立大学内 hogawa@yju.jp 電話 083-928-0211

おいでませ EUROPA No.4

山口EU協会事務局 山口市桜島3-2-1 山口県立大学内

目次 特集：山口ヨーロッパ映画祭

- 1 EU代表部からロイター氏を迎えて
- 2 オープニングスピーチ/オープニングイベントによせて
- 3 ドイツの日によせて/スペインの日によせて
- 4 イギリスの日によせて

山口ヨーロッパ映画祭

—EU代表部からロイター氏を迎えて

NEWS

山口EU協会 岩野雅子
 去る2004年5月14日(金)から16日(日)の3日間、「山口国際交流映画祭2004(ヨーロッパ映画祭)」が開催されました。この事業は、山口県において昨年5月に第1回が行われた国際色豊かな催しであり、第2回を企画するにあたっては、県内にあるヨーロッパ関係の4つの団体が協力して「ヨーロッパ映画祭」と銘打ったものができるかどうか、約1年にわたる準備と話し合いの末に実現したものです。「ヨーロッパを一つに統合する欧州連合(EU)の役割を広く知っていただくためにも、草の根レベルにおいて、まずは県内のヨーロッパ関係団体をつなぐ役割を果たさなくてはならないか」という岩田啓靖会長の呼びかけの下、2003年7月に山口日英協会・山口日英協会との会合をもち、秋には山口ナバラの会にもお声をかけて、2004年1月からは実行委員会体制が整いました。実行委員長には山口日英協会の上原久生氏が就任され、各協会から実行委員会に参加するという形で、映画祭にむけた山口ヨーロッパ連合なるものが形成されていきました。

山口EU協会では本事業を「日・EUフレンドシップウィーク」の公式行事として登録し、全国に配付されたプログラムに初めて山口県での行事が載ることとなりました。「日・EUフレンドシップウィーク」とは、駐日欧州委員会代表部が毎年4月から6月にかけて行っている行事で、日本とEUのパートナーシップを広め、かつ深めていくことを目的とした“人と人”の交流をめざすものです。5月9日のヨーロッパデーを中心に、全国でさまざまな行事—音楽祭や講演会、写真展、スポーツ大会などが繰り広げられています。公式行事となったことで、EU代表部公使参事官・広報部長のエティエンヌ・ロイター氏を山口にお迎えし、山口国際交流映画祭2004(ヨーロッパ映画祭)のオープニングスピーチをお願いするとともに、オープニング記念レセプションを開催いたしました。オープニングは山口情報芸術センターのモダンな雰囲気の中で、また、レセプションはヨーロッパの雰囲気漂う・フランチェスカでピアノやヴァイオリンの生演奏を交えて行い、多くの方々のご協力とご来場をいただきましたことを、ここに御礼申し上げます。

さて、今回のヨーロッパ映画祭のテーマは「人間一心の交流」でした。政治や経済、物や技術の国際化・グローバル化が注目を集める昨今ですが、文化や芸術を含めた心の交流を積み重ねていくことが大切だということ、そして、多民族・多文化共生の歴史と伝統をもちつつ、新しい挑戦を続けるヨーロッパの人々の価値観に学ぼうというメッセージを込めました。このテーマも、ポスターやチラシのデザインも大変好評で、上映された3つの映画の内容、そしてそれに付随する講演やコンサートなども良かったというたくさんの声をアンケートからいただいております。3日間で、のべ900名の来場者がありました。多くの方々にも、私ども実行委員会のメッセージが届いたものと思っております。駐日欧州委員会代表部は2005年を「EU-Japan Special Year for People to People Exchanges」(市民交流年)と位置づけ、全国で広く事業や活動の提言を求めています。ここ山口においても、今年の試みを来年につなげていくことができるかどうか、ご意見をいただければ幸いです。

<山口国際交流映画祭2004(ヨーロッパ映画祭)実行委員会メンバー 敬称略：山口日英協会から今田淳、上原久生、山口ナバラの会より多々良孝一、藤村尚美、山口日英協会から國村禎夫、山田禎二、西村崇夫、山口情報芸術センターより岸正人、山口EU協会より岩野雅子、ビクトリア・ベントリー>

<3日間の学生ボランティア：佐々木彩、中塚麻衣、中神尚穂子、鈴木麻里、宇津宏美、植田麻莉、小幡優子、吉田衣里、江頭加奈子、横田千春、吉田桜子、福田千里、大野彩>



オープニングスピーチを行うロイター氏(左上)、司会を務めた県国際交流員ベントリーさん(右上)、ロイター夫妻を囲むレセプション(下)

エティエンヌ・ロイター氏の オープニングスピーチ

REPORT



山口ヨーロッパ映画祭でいただいたロイター氏のスピーチは、以下の通りです(日本語訳のみ掲載)。

本日、山口EU協会をはじめとする山口県内のヨーロッパ関連団体が主催されますヨーロッパ映画祭を正式にオープニングする名誉を預かり、

レセプション会場にて、宇宙飛行士の秋山豊寛氏と対談するエティエンヌ・ロイター氏。秋山豊寛氏は山口県立大学客員教授。(写真提供 小川秀樹)

ここ山口の地を訪問できましたことを嬉しく思っております。本年度第2回を迎える山口国際交流映画祭を企画運営されたみなさま、特に、山口EU協会、ならびに山口日独協会、山口ナバラの会、山口日英協会に心からお喜びを申し上げますとともに、この映画祭が今後も山口の地で深く根をおろし、伝統の一つとして確立されますことをお祈り申し上げます。(中略)

さて、私ども欧州連合(EU)にとって、今年は特別な年になりました。それは、10カ国の新たな加盟国を迎えて、25カ国の大所帯になったことです。EUと日本の関係については、多くの場合、経済協力や貿易、経済投資といった論議に終始しがちです。しかしながら、私は本日のこの機会に、文化交流の重要性について、さらには人と人の直接的な出会いの重要性について強調したいと思えます。ヨーロッパに住む人々も、日本に暮らす人々も、実際にはお互いのことをまだそんなに深く知っている訳ではありません。ですから、私たちはあらゆる対話や交流の機会をつかって、お互いのことをより深く理解し、相互に関心をもち、お互いの異なった文化を尊重するように動機づけていく必要があります。

この映画祭は、ヨーロッパの文化について、そしてそこに生きる人々の人生について感心を深めていただく良い機会になるでしょう。来年は私たち欧州連合のトップと日本の首相とが、ヨーロッパと日本との間で市民交流を深める年と位置づけた特別の一年になります。そういった意味で、この映画祭が『市民交流年』の前夜祭になるのではないかと考えております。

2005年「EU-Japan Special Year for People to People Exchanges」(日・EU市民交流年)の事業活動案をお寄せください!

INFORMATION

来年の日・EU市民交流年にふさわしい事業を、全国規模で募集しています。いただいたものについては、駐日欧州委員会代表部に提案していきたいと思えます。また、この記念すべき年に、山口EU協会で行ってみたい事業や活動についても、ご自由な意見をお寄せ下さい。

オープニングイベントによせて

REPORT

山口情報芸術センター 岸正人

思い起こせば、一昨年の秋に山口県立大学の国際交流員であったロバート・クーパーさんより、「山口市で国際映画祭を」と昨年開催された第1回山口国際映画祭についてお問い合わせをいただいたのが始まりでした。開催趣旨が、山口情報芸術センター(YCAM)で展開しようとしていた事業に沿っており、なんらかのご協力をと検討したのですが、まだ施設の開館前であったこともあり、残念ながら個人的に若干のお手伝いをするしかできませんでした。

YCAMでは、昨年11月の開館以来、フィリップ・ドゥクフレのダンス公演やアモーダルサスペンションなど様々な公演や展覧会等を通して、市内県内はもとより、福岡や大阪や東京などからも多数のお客様に来館いただきました。来館者は開館7ヶ月で当初予測の倍近い50万名を超えています。なかでも、カナダ大使館やフランス大使館、ブリティッシュ・カウンシル等を初めとする在日文化関係者を初め、海外からのお客様も多く、YCAMの事業を観ていただくと共に山口の文化に触れ、地元関係者との交流を深めていただくことができたのではと自負しております。

また、YCAMでは、多彩で豊かな映画環境の創造を目指し、定期的な映画上映「コミュニティシネマ山口」を毎週末に開催しています。一般公募で選ばれたプログラムコミッティ(選定委員会)が作品を選定。ミニシアター系作品や日本映画の特集、これまで見る機会が少なかったドキュメンタリーなど、多彩で多様な映画活動を行っております。

今年の第2回目にあたる山口国際交流映画祭2004(ヨーロッパ映画祭)では、YCAMのスタジオAにて、初日のオープニングイベントを開催



オープニング会場となったYCAM (写真提供 YCAM)

させていただくとともに、「ドイツの日」として、ケストナーの「飛ぶ教室」の上映をさせていただくことができました。これで、クーパーさんとの約束も果たせたのではと思っています。EU代表部のロイター氏や、大阪ドイツ文化センターペトラ・マトゥーシェ館長など、ご来館いただいたゲストの皆様にも、「他にはない山口独自の素晴らしい施設」とのお褒めの言葉をいただきました。なにより、多くのお客様に恵まれ、上映を楽しんでいただくことができたのが一番の喜びです。これもひとえに山口EU協会や山口日独協会を初めとする実行委員会の皆様のご努力のたまものではと思っています。

来年以降の山口国際交流映画祭についても、文化交流の一環として、また、多彩な映画環境創出の場として、地域の文化活動への協力ができればと考えております。なにはともあれ、委員の皆様、お疲れ様でした。ご来場いただいた皆様、コミュニティシネマを初め、またのご来館をお待ちしております。

ドイツの日によせて —ドイツの魅力

REPORT

山口日独協会 上原久生

5月14日、映画祭初日は昨秋新装となった山口情報芸術センターでオープニングしました。記念イベントとして、講師に大阪ドイツ文化センターからペトラ・マトゥーシェ館長を迎え、文化講演会「ドイツから・文化の今」を行いました。2005年から6年に日本各地で実施される「日本におけるドイツ年」についての事業説明や、ドイツの芸術、文化政策、ドイツの魅力についての紹介がありました。ドイツ文化センターは世界各国に設置されており、ドイツとその国との文化、芸術交流を行っています。日本と異なり、ドイツの経済進出に摩擦が少ないのは、この政策による所が大きいと言われております。山口日独協会でも、来年、「日本・山口におけるドイツ年」として、「ドイツ・リートのタペ」や「モーゼル地方の人と文化」等を計画しています。

ドイツ映画は「飛ぶ教室」が上映されました。原作は、ドイツの国民的作家エーリッヒ・ケストナーで、2003年にドイツで公開され、世界中で大ヒットしています。寄宿舎(ギムナジウム)生活を送る個性あふれる5人の仲間が、偶然隠れ家で見つけた古い芝居の台本「飛ぶ教室」をクリスマスの校内発表劇の為にリメイクし、ミュージカルとして上演するまでを描いた物語です。雪合戦によるケンカ、夜の寄宿舎での枕投げ(何れの国の子どもも同じですね)、女の子との淡い恋模様など、子ども時代に誰もが経験したに違いない、懐かしさを感じさせる場面です。世代を越えた友情、人を愛することの尊さ、大人にとっての子ども時代や青春時代の大切さを、ユーモアを交えて描き出し、私たちに暖かく伝えてくれました。



ドイツの日の講演者マトゥーシェ館長(中央)と通訳を務めた今田淳氏(右)

今回の映画祭のテーマである、「泣いた、笑った、元気になった」を皆様にお届けできたと思っています。会場からのアンケートにもその様な趣旨の反応が多く、私たち企画した者も元気になりました。また、会場内でドイツの民芸品、食品、各種小物等を展示販売しました。ワインも楽しんで欲しかったのですが、これからもドイツを色々な面から知って欲しいと思っています。

今後も、山口における国際交流、地域文化創造にお役に立ちたいと考えています。ドイツは音楽でも素敵な文化を持っています。この方面もご紹介できたらと夢を広がっています。



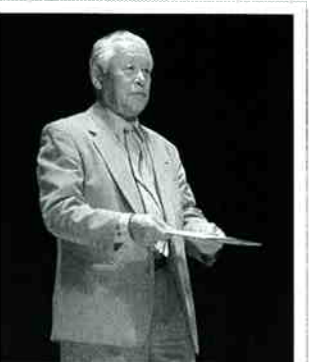
映画祭実行委員長上原久生氏の挨拶

スペインの日によせて —スペインの風

REPORT

山口ナバラの会 多々良孝一

スペインの風を山口に吹かそう!という思いで企画した一日でした。司会者にはフレッシュな大学生を起用。日本語に続くスペイン語が、会場となった山口県立大学講堂に明るく響き渡りました。スペイン大使館からは次のようなメッセージが届きましたので披露いたします。「この度山口県立大学で、ヨーロッパ文化の興味深い紹介が行われます。それは、ヨーロッパ文化に重要な影響を及ぼした3カ国を通して行われます。ヨーロッパ文化の伝統的な面とともに、映画、講演、コンサートといったさまざまな分野での最近の傾向が紹介されます。スペインの日には、スペイン音楽ギターコンサートが開催されますが、スペインが東洋の文化をヨーロッパに伝えるにあたり、いかに重要な役割を果たしたのかが理解されるでしょう(楽器、ギターの起源は東洋にあるのです)。主催者の皆様、特に山口ナバラの会にお祝いを申し上げます。駐日スペイン大使館、文化担当参事官:イグナシオ・アギーレ・デ・カルセル」。



スペイン大使館からの祝辞を受け取る多々良孝一氏

山口県立大学フラメンコ部の華やかな踊りに続いて、澄川孝子&中野義久による「スペインの歌曲とギターによるミニコンサート・オレ!」が開幕。「アルハンブラ宮殿の思い出」やスペイン民謡の調べが会場に流れたのでした。映画「めざめ」ではさまざまな人生模様の背景をラテンのビートが彩り、闘牛の儀式に秘められた神聖なる生と死と愛のドラマに、スペイン文化を垣間見たり一日となりました。

さて、わたくしたちナバラの会は、1997年にパンプローナ市に「山口公園(パルク・デ・ヤマグチ)」が完成したのを機に開園式に参加した市民訪問団の有志で結成された会です。2000年には姉妹友好都市締結20周年を記念して、再びスペインを訪問しています。フランシスコ・ザビエルの生まれたザビエル城やナバラ王国時代の伝統と歴史の重さ、豊かな自然、明るく陽気でマナーのよい人々、公共の公園や広場がいたるところに整備された社会環境、風力発電をはじめとする先端産業などなど、文化や生活習慣の違いには驚く点や学ぶべき点がたくさんあります。今後も、ローマの皇帝ポンペイウスに由来するというパンプローナ市と山口市、またナバラ州と山口県との友好親善交流に貢献し、スペイン文化について山口の方々にお伝えしていきたいと思っています。スペインの山口公園には今日も日本の風がそよぎ、散策を楽しむ多くの市民の姿があることでしょう。



山口公園 パルク・デ・ヤマグチ (写真提供 山口ナバラの会)